

命日にささぐ

マズルカで綴る ショパンの生涯

2010.10月17日(日) 14:00 開演 東京文化会館小ホール

piano

田崎悦子

1810 生誕

1827 Mazurka op.68-2

1830 Nocturne op.posth

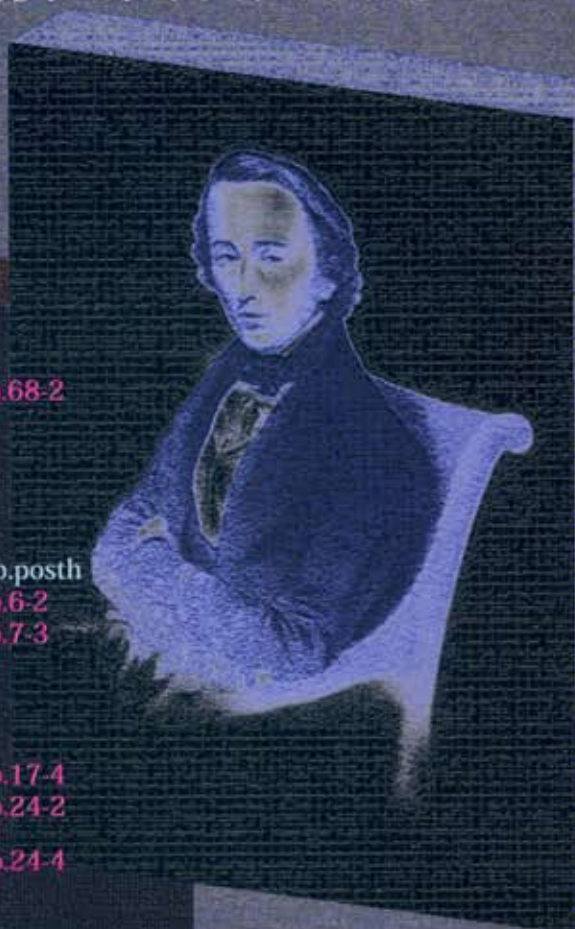
Mazurka op.6-2

1831 Mazurka op.7-3

1833 Mazurka op.17-4

1834 Mazurka op.24-2

1835 Mazurka op.24-4



死の床に到るまで日記のように 生涯書き続けたマズルカ…

はかなく

1840 Fantasia op.49

1841 Mazurka op.50-3

果てしなく 哀愁に満ち

1843 Mazurka op.56-3

優美

1845 Mazurka op.59-2

且つ

Polonaise-fantasia op.61

Mazurka op.67-4

土臭く

Mazurka op.68-4 (絶筆)

1849 没 [10月17日]

蒼い炎のごとく

ゆらめく

永遠の命

全席自由

主催 : Joy of Music & co.

プログラムは都合により一部変更する場合があります

チケット取り扱い、お問い合わせ、マネージメント : コンサートイマジン

03-3235-3777

その他 チケット取り扱い : 東京文化会館チケットサービス 03-5815-5452

e+(イープラス): <http://eplus.jp>

一般: ¥5,000 / 学生: ¥3,500 / ペア券: ¥9,000



田崎悦子のショパン “蒼い炎”

生誕200年、ショパンへのさまざまなオマージュが世界中で行われる中、2010年、田崎悦子のオール・ショパン・プログラムはむしろその生涯と死へのまなざしが静かに、しかし熱く向けられている。

死の床に至るまで生涯愛し、書き続けたマズルカという音楽様式が人間・作曲家・ショパンの全貌を表すものだとすれば、そのマズルカの数々を柱に組み合わせられたこのプログラムは、人間・音楽家・田崎の半生をあぶり出すものではなからうか？ショパン、特にマズルカを語る時、そのはかなく、果てしなく哀愁に満ち、優美かつ土くさい音楽を“蒼い炎”と表現する田崎のショパンは、天から垂らされたひとすじの蒼い光の糸をただ一音一音静かにたぐり、聴く者の心にそっと届ける神の使者のようだ。

10月17日、ショパンの命日に演奏されるこのショパン像は、17才時のマズルカに始まり、数々のマズルカ他、遺作のノクターン、幻想ポロネーズ等の名曲を年代順にちりばめつつ、絶筆のマズルカでそのはかない命を散らす、田崎ならではの心にせまるオマージュとなる事だろう。

(コンサートイメージ)

ピアノ大全集第4夜「ピアノの詩人達」—新聞批評より抜粋—

彼女(田崎悦子)が表出する音楽の本質は、並大抵のピアニストに真似できる類のものではない。一音一音に自身の人生そのものを投影させるかのような演奏は、聴き手の心の奥底まで鋭くえぐり出す。

近年、これほど真剣勝負で聴かなければならぬショパンに巡り合ったことはなかった。～以下略

日本経済新聞 2008年6月4日夕刊より (音楽評論家 室田高志)

プロフィール

1979年、シカゴ交響楽団常任指揮者のゲオルグ・ショルティに発掘され、同オーケストラとバルトーク・ピアノコンチェルト第2番で衝撃的なデビューを飾った田崎悦子は、一躍国際的の檜舞台に上がった。その他、これまでに協演した指揮者はサヴァリッシュ、スラットキン、ブロムシュテット、小澤征爾など世界一線の指揮者達である。山口秋子氏に師事し、全日本学生音楽コンクールピアノ部門優勝後、桐朋学園音楽部高校を卒業、フルブライト奨学金を得て、ジュリアード音楽院に留学。以後30年間ニューヨークに在住。1970年プソーニ国際コンクール他で上位入賞し、ヨーロッパ楽壇にデビュー。1972年カーネギーホールにてニューヨークデビュー。これまでに、シカゴ、セントルイス、ブダペスト、ロッテルダム、スイスロマンド他、世界のオーケストラと協演。アメリカ建国200年記念音楽祭においては、若きアメリカのホープとして、ケネディセンターでのリサイタルに選ばれた。又、ルツェルン、マールボロ、アスペン、サイトウ・キネン、草津音楽祭などの国際フェスティバルに出演。日本ではN響をはじめ、多くのオーケストラと協演。ソロでは“ドイツロマンをもとめて”(1987-1997)“三大作曲家の遺言”(1997文化庁芸術祭参加作品)“ピアノ・マラソン”(2001)“NACH BACH”(2004)と、2006年—2009年まで東京文化会館において続行された6回シリーズ「田崎悦子ピアノ大全集」では、バッハより21世紀までの全ピアノ史を縦断するという前代未聞の企画を完奏、その魂をゆるがす表現力は「一音一音に自身の人生そのものを投影させるかのような演奏は、聴き手の心の奥底まで鋭くえぐり出す」(日本経済新聞)と絶賛され、「日本ピアノ界の金字塔」といわれるイベントとなった。八ヶ岳ピアノマスタークラス、Joy of Music総合音楽監督、桐朋学園大学音楽部、及び同大学院 特任教授。現在、八ヶ岳山麓に居住。

田崎悦子 Discography

- シューベルト : ピアノ・ソナタ第20番 & 即興曲D.935
- シューベルト : ピアノ・ソナタ第21番 & 即興曲D.899
- シューマン : 子供の情景 & ダヴィッド同盟舞曲集
- フランク : 前奏曲、コラールとフーガ
- シューベルト : ピアノ・ソナタ第19番 & 楽興の時
- リスト : ピアノ・ソナタ
- シューマン : クライスレリアーナ
- 田崎悦子コンサート・ライブ
- バッハ : ハルティータ 第6番
- シューベルト : ピアノ・ソナタ第17番
- バッハ : ハルティータ 第4番 & 第6番
- モーツァルト : ファンタジー K.475 in C minor (レコード芸術特選盤)

以上、カメラータ・トウキョウより発売中

田崎悦子HP (<http://www.etsko.jp/>)他インターネット上で発売中

ETSUKO TAZAKI